

GPS を用いた空き店舗（業種別）分布および空き店舗の景観の分析

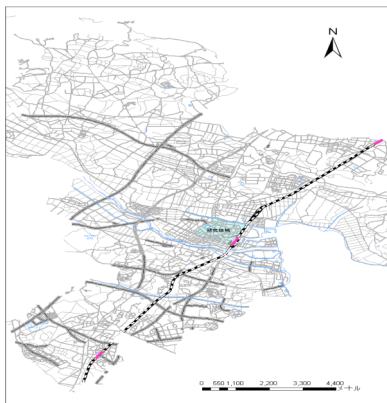
The distribution and landscape of unoccupied stores using GPS

朴 圭泰（地球科学専攻・空間情報科学分野）

Kyu Tae PARK (Division of spatial information Science)

(1) 動機・目的：消費者の低価格志向やワンストップショッピング志向が強まったことなどから全国の商店街には「空き店舗」が増加している。さらには、日本の伝統的な景観である店舗併用住宅(木造2階建て)が無くなりつつあることから、今回の分析では、空き店舗の業種別分布及び空き店舗の景観の構造について分析した。

(2) 対象地域



調査は、土浦市駅周辺の中心市街地区域の大和町、川口、東崎町、中央、城北町、大手町、桜町(三)地区を対象に行った。

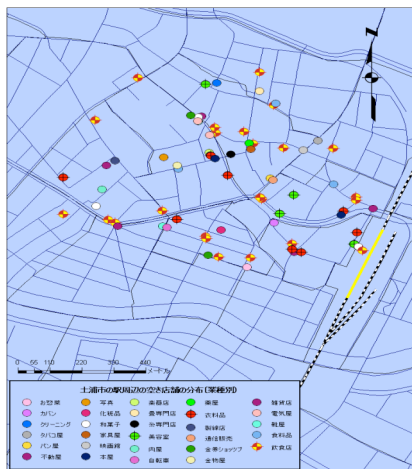


図1 土浦市の駅周辺の空き店舗の分布

(3) 使用データと方法：空き店舗データは、ハンディGPS端末を用い、空き店舗のある地点でWay Pointを記録し、GISソフトに取り組んだ。地図データは、数値地図25000を使用。その他、属性データに関しては、聞き取りを行い分析した。

(4) 使用したソフトウェア：分析には、カシミール3DとGISソフトウェア「ArcMap Version9.1」を用いた。

(5) 結果：空き店舗の分布は図1に示した。対象地域にあたり、飲食業の割合(約31%)が非常に高く、衣料品(10%)、美容室(6%)、和菓子(5%)食料品(4%)等が目立っている。主な原因としては、「景気の低迷」「大型店の影響」「後継者不足」、商店街の空き店舗の問題としては業種構成の悪さ、業種不足などの原因が考えられる。

図2の空き店舗の景観に関しては、店舗併用住宅(木造2階建て)の空き店舗が多く目立つ。さらに、空き店舗であるが住居者が居ない空き店舗も多いことがわかる。

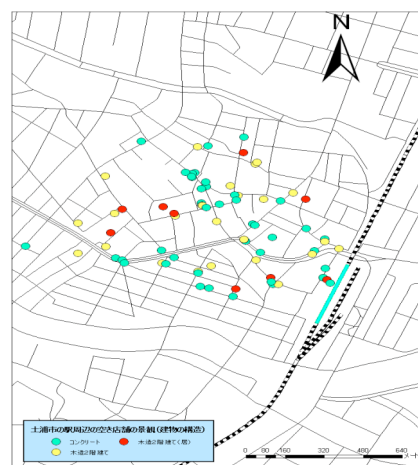


図2 土浦市の駅周辺の空き店舗の景観の分布